

# グリムの館 ご案内



グリムの森の中にある「グリムの館」は、ドイツのレッチェンゲン庁舎をイメージした多目的ホールのある建物と木組みの家2棟を組み合わせた鉄筋コンクリート一部3階建てです。



展示ホール



売店

## 1F

多目的ホール  
(電動式移動客席使用時)



多目的ホール  
(客席収納時)



グリムの館多目的ホールは、さまざまな催しに貸し出ししております。客席を使用してコンサートや発表会など、平面の状態でダンスやパーティなどにご利用いただけます。また、控室は1階と2階に合計3部屋あり、小会議室として、打ち合わせや講習会などにご利用いただけます。

## 2F



図書コーナー



**Cafe Pause** カフェパウゼ  
(営業時間) ④⑤ 11:00~16:00



控室

# グリムの森 ご案内

「グリムの森」は、雑木林を活かした公園とドイツをイメージして造られた建物「グリムの館」からなる、グリムの里づくりのための中核的施設です。

## ●ものがたりの泉



## ●お菓子の家



- 営業時間  
11:00~17:00
- 問合せ  
0285-35-1141

## 注意事項

- ※敷地内(園内・館内)は全て禁煙です。
- ※動物の散歩は禁止です。一緒に入園する場合にはゲージなどに入れてください。
- ※自転車やバイクなどの園内への乗り入れ・進入は禁止です。自転車置場をご利用ください。



## ●七人の小人の広場



## ●黄金のがちょうの泉



## ●領主の森



## ●グリムの広場



0 20 100m





〈グリムの森イルミネーション〉 〈グリムの森フェスティバル〉 〈おはなしフェスト〉



**電車・バス利用**

- J R宇都宮線「石橋駅」下車⇒関東バス「J R宇都宮駅行」  
= (約1分) ⇒ 通古山バス停下車 = 徒歩12分 ⇒ グリムの森
- J R宇都宮線「石橋駅」下車⇒関東バス「文教経由・J R宇都宮駅行」  
= (約5分) ⇒ 文教通り下古山バス停下車 = 徒歩10分 ⇒ グリムの森
- J R宇都宮線「石橋駅」下車 = 徒歩25分 ⇒ グリムの森

**車利用**

北関東自動車道「壬生 I.C」下車約15分  
東北自動車道「鹿沼 I.C」又は「栃木 I.C」下車約30分  
駐車場117台（車椅子利用者4台）

**開園時間**

午前9時～午後8時（10月～3月は午後7時まで）

**休園日**

毎週火曜日、毎月月末  
※土・日曜、祝日の場合は翌日  
年末年始（12/28～1/4）



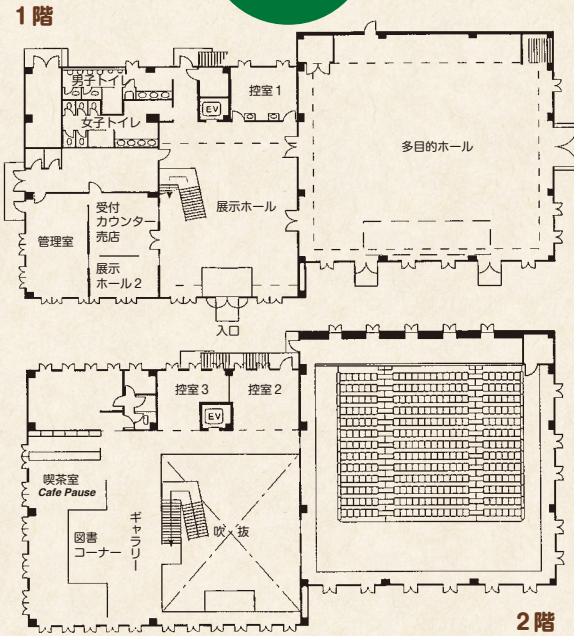
一般財団法人 グリムの森「グリムの館」指定管理者  
**グリムの里いしばし**

〒329-0502 栃木県下野市下古山747番地  
TEL 0285-52-1180 FAX 0285-52-1181

<http://www.grimm-no.net>



**グリムの館 館内平面図**



グリムのそよ風、やさしさ体感。

**「グリム」とは？**

この森や建物の名前にもなっている「グリム」とは「グリム童話」「グリム兄弟」の「グリム」です。「グリム兄弟」は1800年代に活躍した政治家であり、学者であり、文学者であった兄弟のことを指しています。兄のヤーコブは1785年1月4日、弟のヴィルヘルムは翌年2月24日にドイツのヘッセン州ハーナウに生まれました。ふたりは、早くに亡くなった父親の代わりに弟妹たちを支えながら、立派な業績を残しました。

グリム兄弟は、ドイツの伝承昔話を後世に残そうと、身近な女性たちから昔話を聞き、それを文章にしました。その時の題名は「Kinder- und Hausmärchen」といい、日本では「子どもと家族のための童話」と訳されています。1812年に初版が発行された時は156話だったこの本は、版を重ね、最後の第7版（1857年）では200話に達しました。これらのお話は、今でも「グリム童話」として世界各地に広まっています。

**なぜ下野市が「グリム」なの？**

石橋町は昭和41（1966）年、グリム兄弟が生まれ活躍したドイツのヘッセン州にある、シュタインブリュッケン村の児童と、絵画や習字などの作品交換を始めました。「シュタイン=石」「ブリュッケン=橋」を意味するこの村は、同じ「石橋」という名前なのです。昭和50（1975）年には姉妹都市の盟約を結び、以来交流を続けてきました。

現在、シュタインブリュッケンは周辺の3村と合併し「ディーツヘルツァール」の一部に、石橋町も合併して「下野市」となりましたが、下野市とディーツヘルツァールは姉妹都市として、変わらず交流を続けています。